



JALグループのサステナビリティの取り組みについて

JALグループは、事業を通じて社会の課題解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。JAL Times6月号では、当社のサステナビリティの取り組みについてご紹介させていただきます。

SDGsの達成に向けたESG経営

JALグループは2030年のSDGs達成に向け、スピード感を上げて、事業を通じて社会の課題解決に取り組むために、「環境」「人」「地域社会」「ガバナンス」の4つの重点領域と22の課題を定め、その中でも特に注力すべき課題について、5月7日に発表した中期経営計画に反映し、取り組みを加速させています。

	代表的な課題	主な取り組みとFY2025の目標	貢献するSDGs	
E 環境	気候変動への対応	CO ₂ 総排出量の削減 [航空機の運航] ▶ 総排出量 909万ト未満 [地上施設] ▶ FY2030の削減目標 FY2013対比 50%		
	限られた資源の有効利用	使い捨てプラスチック製品の削減 3R (Reduce/Reuse/Recycle)+1(Redesign)の推進 機内食の食べ残しと調理時の食品廃棄の削減 機内食事前キャンセル受付サービスの国際線全路線展開と社内で調理時に発生する残渣のリサイクルを徹底		調理残渣のリサイクル率 100%
				次頁参照
S 人	D&I推進	JALグループ内の女性活躍機会の拡大	JALグループ内女性管理職比率 30%	
	アクセシビリティの向上	全てのお客さまが安心してご旅行できる環境整備 移動にバリアを感じているお客さまに、ストレスフリーな移動とさまざまな旅の選択肢を提供	全搭乗者数に占める該当旅客の割合 FY2019対比 2.5倍	
	感染症拡大の防止	医薬品輸送を通じた公衆衛生向上への貢献 航空のスピード活用と厳格な温度管理で、社会の安全・安心を支えるインフラサービスを提供	医薬品輸送重量 FY2019対比 +50%	
地域社会	地域活性化	事業を通じて新たな流動を創出	国内の旅客*1・貨物輸送量 FY2019対比 +10%	
G ガバナンス	公正な事業行動の推進	コーポレートガバナンス体制のさらなる強化 グループガバナンス・リスクマネジメントの深化、取締役会実効性評価等を通じた継続的な取り組み	コーポレートガバナンス・コードのコンプライア率 100%	
	責任ある調達活動の推進	社会的責任*2に配慮した調達活動の推進 サプライチェーン全体での確実なリスクの把握と対処	主要な一次サプライヤーの自己点検による健全性確認率 100%	

ESG総合評価：FY2023までにDJSI *3 Worldの構成銘柄への選定を目指す

*1：観光需要喚起や新規流動の創造による旅客数の増分 *2：環境配慮・公正な事業慣行・人権尊重など *3：Dow Jones Sustainability Index

2050年のCO₂排出量実質ゼロに向けて

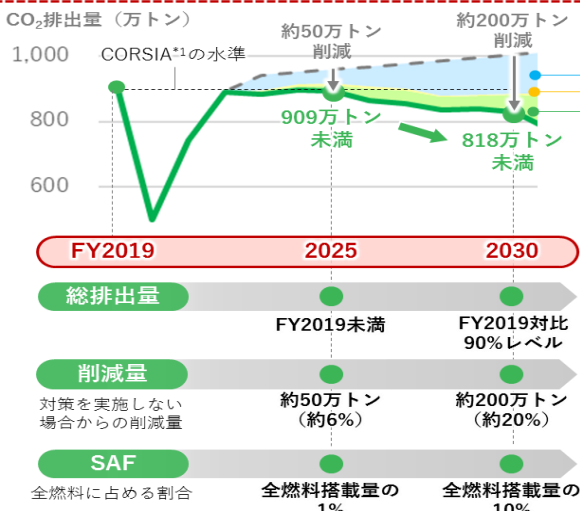
JALグループは、気候変動への対応として2020年6月に、2050年までにCO₂排出量実質ゼロを目指すことを発表しました。「省燃費機材への更新」、「運航の工夫 (JAL Green Operations)」、「SAF (代替航空燃料) の活用」の3つの柱でCO₂排出量削減を行います。

FY2025 CO₂削減目標

総排出量：909万トン未満 (約50万トン削減) 約50万トン規模の削減を実施し、総排出量をFY2019未満に抑える

FY2030 CO₂削減目標

総排出量：818万トン未満 (約200万トン削減) 総排出量をFY2019の90%レベルに抑え、2050年の目標達成に向けて削減を加速する



省燃費機材への更新



FY2030削減寄与度 **約60%**
A350、787等の最新鋭機材に着実に更新
将来的な航空機の電動化・水素化に向けて、機体メーカー等と連携し、技術開発を促進

運航の工夫



FY2030削減寄与度 **約5%**
日々の運航の工夫により削減を図る「JAL Green Operations」を推進
官民共同の次世代航空交通システム開発等へ積極的に参画

SAFの活用



FY2030削減寄与度 **約35%**
FY2030に全燃料の10%をSAFに置き換えることを目指す(利用環境の大幅な改善が前提)
出資先のFulcrum社の活用に加え、国産SAFのサプライチェーンを構築

使い捨てプラスチック削減

JALグループでは、資源循環型社会の実現に向けて、3R(Reduce/Reuse/Recycle)+1(Redesign)の推進により、お客さまに提供するすべての使い捨てプラスチック用品の削減の取り組みを推進しています。

位置づけ・目標

お客さまに提供する使い捨てプラスチックを

客室・ラウンジ：新規石油由来プラスチック全廃(*1)

貨物・空港：環境配慮素材配合へ100%変更(*2)

(*1)環境配慮素材のみでできたプラスチックを使用

(*2)環境配慮素材の配合率は問わない

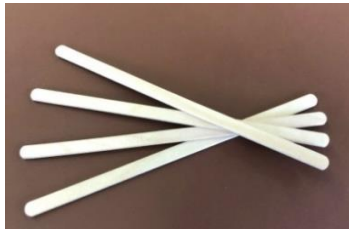
【具体的な取り組み】



ポリエチレンシートを使用した貨物→陸前高田市の情報杭



プラスチック製ストローやマドラーを別素材に変更



プラスチックのカトラリーをステンレス製へ変更

取組みの方向性

3R+1の推進

Reduce (減らす)

Reuse (再利用する)

Recycle (リサイクルする)



Re-design

(リデザインする)

- ・商品の用途や調達・廃棄方法の見直し
- ・社外と連携した回収・循環の仕組み構築

食品廃棄削減の4R

JALでは、運航における排出量抑制だけでなく、機内やラウンジで提供するお食事についても排出量削減に取り組んでいます。



不要となった国際線機内食は、検疫のルールにより焼却処分をする必要がありますが、食品は多くの水分を含むため、通常のゴミと比べて焼却にかかる負荷が大きく、多くのCO₂を排出します。機内食を残さずにお召し上がりいただくことで、廃棄にかかるCO₂を削減につながります。(「リデュース」)

また、機内に搭載しなかったお食事を寄付(「リユース」)したり、成田空港の国際線だけで月間約3トンになる調理中の野菜かすなどを飼料化(「リサイクル」)するなどの取り組みを行っております。

【JAL Ethical Choice ~Meal Skip Option~】

機内食が不要な場合、ご出発前にJAL Webサイトより事前にお申し込みいただけます。機内でゆっくりとお休みになりたい方や食品廃棄削減にご協力をいただける方はぜひご利用ください。(「リフューズ」)

(ツアーなど一部のご予約は対象外となります。また、対象路線など一部条件がございます。詳細はJAL Webサイトをご覧ください)



「JALだからこそできること」

本業である航空運送事業を通じて、JALグループだからこそできる社会の課題解決に取り組めます。

さらに詳しい内容はJAL Webサイトをご覧ください。 www.jal.com/ja/sustainability/